

**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
 (仮称)佐伯警察署

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版  
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.8</b>	0.15					<b>2.8</b>
1.1 騒音		<b>3.0</b>	0.40					
1 暗騒音レベル		3.0	1.00					
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	0.60					
2 界壁遮音性能		3.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		<b>2.0</b>	0.20					
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.8</b>	0.35					<b>2.8</b>
2.1 室温制御		<b>3.5</b>	0.50					
1 室温設定	設計用温湿度条件	3.0	0.38					
3 外皮性能	外壁0.034w/mk、窓断熱0.765W/m <sup>2</sup> K、SC0.1~0.15	5.0	0.25					
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38					
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20					
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30					
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.4</b>	0.25					<b>3.4</b>
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.30					
1 昼光率		3.0	0.60					
2 方位別開口								
3 昼光利用設備		3.0	0.40					
3.2 グレア対策		<b>4.0</b>	0.30					
2 昼光制御	ブラインドと庇を採用している	4.0	1.00					
3.3 照度		<b>4.0</b>	0.15					
1 照度	事務室の照度は750LX以上1000LX未満としている	4.0	1.00					
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25					
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.2</b>	0.25					<b>4.2</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50					
1 化学汚染物質	内装材についてはF★★★★を使用している。	5.0	1.00					
4.2 換気		<b>3.6</b>	0.30					
1 換気量	建築基準法及び建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍としている。	4.0	0.33					
2 自然換気性能	自然換気が取れるよう窓の大きさを配慮した。	4.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33					
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20					
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50					
2 喫煙の制御		3.0	0.50					
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>					<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.5</b>	0.40					<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>2.6</b>	0.40					
1 広さ・収納性		1.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応	執務室関係OA機器用コンセント容量は40VA以上としている。	4.0	0.33					
3 バリアフリー計画		3.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		<b>4.3</b>	0.30					
1 広さ感・景観		5.0	0.33					
2 リフレッシュスペース	自動販売機、浴室を設けた。	4.0	0.33					
3 内装計画		4.0	0.33					
1.3 維持管理		<b>4.0</b>	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	維持管理を容易にするために主な壁仕上げを、つやありEPとしている。	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		4.0	0.50					
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.31					<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.33					
1 躯体材料の耐用年数		4.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	主な壁仕上げを、つやありEPとしている。	4.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔	照明器具の耐用年数は20年	3.0	0.23					

2.4 信頼性			3.8	0.19		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	擬音装置の取付(節水対策)、洗面器に自動水栓を採用している。	4.0	0.20		-	
3	電気設備	非常用発電機を設置、地下1階はGL+94mmの為浸水の危険性がない	4.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、引込の2ルート化、浸水の危険性がない	5.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.8	0.29		-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.2	0.45		-	
1	階高のゆとり	主要な階高は3.9m以上としている。	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			-	-		-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.55		-	
1	空調配管の更新性	必要に応じて、PSを確保し、さらに天井機を広く(高く)とすることで、改修時において天井の撤去を必要としない。	4.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	天井内ケーブル転がし配線、OAフロア内配線、ケーブルラック配線としている	5.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		5.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	主要機器は屋上に設置している	3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	2.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		主要な道路に対して、外壁を曲面とするなどし景観に廃炉した。	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	外灯、監視カメラを設置している。	3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.4
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30		-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化			4.4	0.30		-	4.4
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
4.1	モニタリング		-	-		-	
4.2	運用管理体制		3.0	1.00		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.15		-	3.0
1.1	節水	横水栓に節水コマを採用	3.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水再利システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63		-	2.9
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22		-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.68		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	断熱材	ノンフロンの発泡断熱材を使用している。	5.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	2.8
1 地球温暖化への配慮			3.5	0.33		-	3.5
2 地域環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		2.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	用途ごとに出入り口を3箇所設けている。	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33		-	2.7
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	騒音	騒音規正法の規制対象となる特定施設は無い	3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2	風害、日照障害の抑制		1.6	0.40		-	
1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
2	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3	光害の抑制		4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策がドライインのチェック項目の一部を満たしている。広告物照明を行っていない。	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	